

平成19年度 事業評価書

| | | | | | |
|-----------|----------------------------|------|-------|------|-------|
| 地域名 | 長野県飯田市 | 選定年度 | H16年度 | 事業規模 | 大規模事業 |
| まちづくり協議会名 | 飯田市環境協議会 | | | | |
| モデル事業名 | 環境時代のグローバル(環境と地域経済の融合)推進事業 | | | | |

1. 事業の実施状況

| | | | |
|-------|-------|-------|--|
| 委託事業 | 事業期間 | H16年度 | 普及啓発事業として、自然エネルギー大学校セミナーやバイオマスシンポジウムを開催したほか、戸建住宅に係るエネルギー消費量とCO2排出量のLCA手法による評価を実施。 |
| | | H17年度 | 普及啓発事業として、自然エネルギー大学校セミナーや省エネ住宅に係るシンポジウムを開催。 |
| | | H18年度 | 普及啓発事業として、自然エネルギー大学校の企画運営やライフサイクルアセスメント評価事業を実施。 |
| | 事業完了後 | H19年度 | 事業完了後であり、事業は実施していない。 |
| 交付金事業 | 事業期間 | H16年度 | 公共施設を中心に自然エネルギーの活用と循環型社会を目指し、公立全小中学校等に木質ペレットストーブ等を設置。 市民の共同出資により保育園等38カ所の公共施設の屋根に太陽光発電設備を設ける、太陽光市民共同発電事業を実施。 地域特性を生かした環境共生住宅モデルとして、共同住宅に太陽光発電設備とペレットストーブボイラーを設置。 |
| | | H17年度 | 保育園や交流センター等に木質ペレットストーブや薪ストーブを設置。また、風の学舎にウッドボイラーを設置。 |
| | | H18年度 | 商店街ESCO事業として、飯田市内の商店・事業所等や飯田市美術・博物館に省エネ機器を導入。 |
| | 事業完了後 | H19年度 | 事業完了後であり、事業は実施していない。 |

2. 評価・分析

| | |
|-------------|--|
| ①事業の特色・モデル性 | <p>太陽光市民共同発電事業は、設置費用を交付金のほか市民出資で賄っており、太陽光発電により得た収入を事業の運営及び出資市民への分配するという、市民を巻き込んで継続する仕組みを構築しており、新たな地域システムづくりとしてのモデル性を高く評価する。整備した設備を地域における環境教育に積極的に活用している点も評価でき、住民の環境教育への意義も大きい。市民出資は、民力を引き出すのに非常に重要であり、今後の様々な展開を期待する。</p> <p>木質ペレット事業は、森林管理に目を向けることが出来、森林保全効果を生む点を評価したい。間伐材切り出しに経済的効果を与えたことも意義深く、森林日本のモデル性を有している。地域内に既にペレット製造施設があることから、当該施設と連携し木質バイオマスの地域における利活用のシステム構築を目指すとともに、導入した施設を活用した普及啓発を行い、その取組が地域全体に波及することを期待する。</p> |
|-------------|--|

| 地 域 名 | 長野県飯田市 | 選定年度 | H16年度 | 事業規模 | 大規模事業 |
|---------------------------|---|---------|---------------------------------|------|-------|
| ②環境保全効果 (二酸化炭素排出削減効果等) | 二酸化炭素排出削減効果 | | 備 考 | | |
| | 目 標 値 | 1,212.8 | H16年度、H17年度、H18年度事業分 | | |
| | 実 績 値 | 587.1 | H16年度、H17年度、H18年度整備施設のH19年度稼働実績 | | |
| | (目標値・実績値単位:t-CO2/年) | | | | |
| ③経済活性化効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光市民共同発電事業 前年度同様、概ね妥当な成果が得られている。また、保育園での事業は市民を巻き込む仕組みづくりを展開しており、高く評価できる。 ・ 木質ペレット事業 前年対比では、小中学校におけるペレットストーブ使用量増加に伴う効果があった。また、大型ペレットボイラーの稼働に伴い、安定的なペレット需要の確保が可能となっている。しかし、企業人材住宅でのペレット配達が一時的に滞るなど、供給方法に問題があり、配達体制の検討が必要である。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体として、太陽光以外は目標を下回っているものも多く、課題整理と改善が必要である。 | | | | |
| ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光市民共同発電事業 太陽光市民共同発電事業について、売電収入のほか、グリーン電力証書の販売も見込んでおり、また、設備設置の自己負担分は市民出資で賄うなど、経済的観点からも有効であり、評価できる。今年度は事業モデルとして確立されたが、事業性としては現状では大幅な収益性が望めないため、商店街ESCO事業の収益とセットで事業を展開する必要がある。 ・ 木質ペレット事業 木質ペレットボイラー・ストーブについて、ペレット購入量をもとに灯油換算額を算出し、灯油換算額とペレット購入額の差から、灯油代削減額を求めており、各施設で一定の効果を得ている。特に大型ペレットボイラー導入施設では、その稼働により大幅な灯油削減効果を得られた。しかし、その効果は灯油・ペレット価格の推移や設備の使用状況等により変動するものであり、その点も踏まえた検証が望まれる。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 視察者が増えているが、環境と経済の活性化という観点から、初期の目標を達成しているかの検証が必要である。 | | | | |
| ④その他 | ハードとソフトの連携という事業のテーマを理解し、人材育成システムを整備した点を評価したい。 | | | | |
| | | | | | |